

Denka

Possibility
of
chemistry

2021年度 決算説明資料 (2022年3月期)

証券コード：4061

デンカ株式会社

2022年5月11日

1 Denka Value-Up計画5年間の業績推移 02

2 2021年度（2022年3月期）決算概要

① まとめ	(前年比、2月予想比)	04
② 増減要因	(前年比)	05
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	06
④ セグメント別内訳	(")	07
⑤ セグメント別増減要因	(")	08-11
⑥ セグメント別内訳	(2月予想比)	12

3 2022年度（2023年3月期）業績予想

① 主要指標		14
② まとめ	(前年比)	15
③ 増減要因	(")	16
④ 営業利益 増減要因グラフ	(")	17
⑤ セグメント別内訳	(")	18
⑥ セグメント別増減要因	(")	19-23
⑦ 株主還元		24
⑧ Denka Value-Up 数値目標との差異		25
⑨ 2023年度にむけて		26
⑩ (参考) 四半期推移 (セグメント別)		27

4 トピックス

ヘルスケア事業戦略

28-41

2018年度実績

2019年度実績

2020年度実績

2021年度実績

2022年度予想

営業利益 **342** 億円

営業利益 **316** 億円

営業利益 **347** 億円

営業利益 **401** 億円

営業利益 **430** 億円

営業利益率 **8.3** %

営業利益率 **8.3** %

営業利益率 **9.8** %

営業利益率 **10.4** %

営業利益率 **9.5** %

スペシャリティー化率
64 %

スペシャリティー化率
73 %

スペシャリティー化率
97 %

スペシャリティー化率
92 %

スペシャリティー化率
87 %



Denka Value-Up計画 スペシャリティー事業の着実な成長

2021年度 決算概要 (2022年3月期)

単位：億円	2020年度	2021年度	前年比	2021年度 2月予想	2月予想比
売上高	3,544	3,848	+ 305	3,850	△ 2
営業利益	347	401	+ 54	400	+ 1
営業利益率	9.8%	10.4%	+ 0.6%	10.4%	+ 0%
経常利益	321	365	+ 43	360	+ 5
純利益	228	260[※]	+ 32	260	+ 0

※ 新型コロナウイルス迅速診断キット一部ロットの自主回収に係る費用10億円および米国子会社DPEのれんの減損損失10億円を特別損失に計上

スペシャリティー事業が大きく貢献し、各利益とも過去最高を更新

前年比（億円）

売上高

3,848億円

+ 305

- | | | |
|---------|--|-------|
| 1. 数量差： | xEV・半導体関連製品の需要拡大
新型コロナ抗原迅速診断キット(政府への供給含む)、炎症マーカーなど検査試薬がプラスも、インフルエンザワクチンは生産性悪化によりマイナス
クロロプレンゴムなどの主要製品は新型コロナウイルス影響から需要回復 | + 286 |
| 2. 売価差： | 新型コロナ抗原検査キットの保険点数引き下げ
原材料価格上昇に対応したスチレン系製品など販売価格改定 | + 331 |
| 3. その他： | 収益認識に関する会計基準変更（グループ商社売上高変更など） | △ 313 |

営業利益

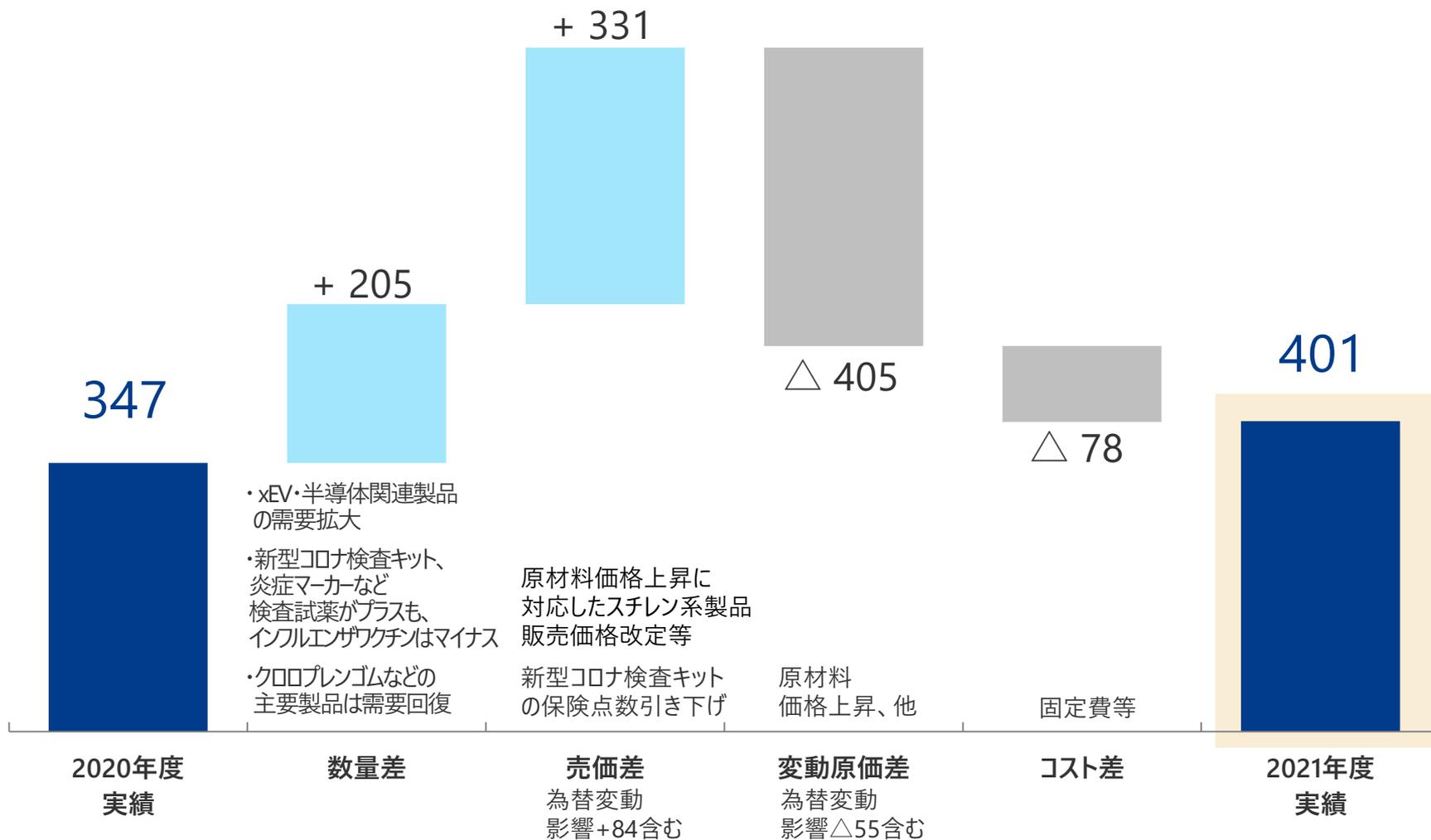
401億円

+ 54

- | | | |
|-----------|--|-------|
| 1. 数量差： | xEV・半導体関連製品の需要拡大
新型コロナ抗原迅速診断キット(政府への供給含む)、炎症マーカーなど検査試薬がプラスも、インフルエンザワクチンは生産性悪化によりマイナス
クロロプレンゴムなどの主要製品は新型コロナウイルス影響から需要回復 | + 205 |
| 2. 売価差： | 新型コロナ抗原検査キットの保険点数引き下げ
原材料価格上昇に対応したスチレン系製品など販売価格改定（為替変動影響+84含む） | + 331 |
| 3. 変動原価差： | 原材料価格上昇、他（為替変動影響△55含む） | △ 405 |
| 4. コスト差： | 固定費等 | △ 78 |

xEV・半導体関連製品と新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要伸長が寄与

単位：億円



xEV・半導体関連製品と新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要伸長が寄与

売上高 単位：億円	2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	その他※
電子・先端プロダクツ	777	902	+ 124	+ 48	+ 108	△ 32
ライフイノベーション	429	461	+ 32	△ 73	+ 105	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	919	1,069	+ 150	+ 49	+ 123	△ 22
ポリマーソリューション	1,099	1,266	+ 167	+ 308	△ 135	△ 6
その他 / 消去差	320	151	△ 168	-	+ 84	△ 253
合計	3,544	3,848	+ 305	+ 331	+ 286	△ 313

※収益認識に関する会計基準変更

営業利益 単位：億円	2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	142	187	+ 44	+ 48	+ 61	△ 64
ライフイノベーション	148	155	+ 7	△ 73	+ 93	△ 13
エラストマー・インフラソリューション	△ 36	△ 35	+ 1	+ 49	+ 49	△ 97
ポリマーソリューション	84	79	△ 5	+ 308	△ 5	△ 308
その他 / 消去差	8	15	+ 7	-	+ 7	△ 0
合計	347	401	+ 54	+ 331	+ 205	△ 483

電子・先端プロダクツが大幅増益、
ライフイノベーションが前年に引き続き、高い利益水準を維持

単位：億円			2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	777	902	+ 124	+ 48	+ 108	△ 32 [※]
営	業	利 益	142	187	+ 44	+ 48	+ 61	△ 64

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

球状アルミナ

- xEV関連、5G通信関連の需要が伸長
- シンガポールでの新設備一部稼働効果

球状シリカ 高機能フィルム

- 半導体関連製品は旺盛な需要を背景に、出荷が前年を上回る

アセチレンブラック

- 高付加価値グレードへのシフトが順調に進展
- xEV関連は、半導体不足による自動車減産の影響を一時的に受けるも、出荷が前年を上回る
- 洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要が堅調に推移

セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)

- 電鉄向けは、新型コロナウイルスの影響からの需要回復遅れ
- xEV関連は、半導体不足による自動車減産の影響を一時的に受けるも、出荷が前年を上回る

コスト

- 原材料価格上昇（→11月から球状シリカを値上げなど）
- 更なるスペシャリティー化の進展のための費用（増産体制構築や販売体制強化による費用増加など）

xEV、5G通信、半導体関連製品のメガトレンドを捉え増益

単位：億円			2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	429	461	+ 32	△ 73	+ 105	△ 1 [※]
営	業	利 益	148	155	+ 7	△ 73	+ 93	△ 13

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- インフルエンザワクチン
- 昨年との製造株の違いによる収率悪化、ワクチン生産用資材の不足などにより、生産・出荷数量が前年を下回る
- 新型コロナウイルス
抗原迅速診断キット
- 販売価格は前年より下落（12月31日に保険点数引き下げ）
 - 7-9月には厚生労働省の配布事業に供給（高齢者施設、職場、学校などでの活用、他）、1月以降、第6波の感染拡大により、検査キットによる検査需要が急増したことから前年を上回る
 - 海外では、11月から米国に出荷開始
- その他検査試薬
(炎症マーカー等)
- 中国向け・欧米向けにて需要が回復・拡大し、前年の出荷を上回る

**インフルエンザワクチンの出荷数量が前年を下回るも、
新型コロナ検査キットやその他検査試薬が前年を上回り、引き続き高い利益水準**

単位：億円			2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	919	1,069	+ 150	+ 49	+123	△ 22 ※
営	業	利 益	△36	△35	+ 1	+ 49	+ 49	△ 97

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- クロロプレングム
- 産業用途、接着材用途、自動車用途などの需要が回復
 - 原材料価格上昇（ブタジエン・塩素・コークス）に対応し、8月の値上げに続き、2月に追加値上げ
 - 米国DPEでは2月の凍害、8月のハリケーンにより機会損失が発生
- 特殊混和材
- 民間建設工事の落ち込みなどにより、出荷数量が前年を下回る
- セメント
- 民需低調の継続に加え、災害復旧需要などの官需も昨年を下回る
 - 石炭などの原燃料価格上昇に対応した価格改定が遅れている

米国DPEでの凍害・ハリケーン影響と原材料価格高騰により営業赤字継続

単位：億円			2020年度	2021年度	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	1,099	1,266	+ 167	+ 308	△135	△ 6 ※
営	業	利 益	84	79	△ 5	+ 308	△ 5	△308

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
 - T V やモニターなどの導光板用途や化粧品容器などその他の用途において、販売が前年を上回る（PS 樹脂は、MS 樹脂製造設備への転用・改造工事実施により、出荷数量が前年を下回る）
- AS・ABS・透明樹脂など
 - 新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、出荷数量が前年を上回る
- 食包シート・容器
 - 概ね前年並みとなる
- Toyokalon
 - 新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、出荷数量が前年を上回る
- スプレッド
 - 原材料価格上昇（エチレン、ベンゼン、他）に対応した価格転嫁によりスプレッドを維持

原材料価格上昇もスプレッドを維持

売上高 単位：億円	2021年度 2月予想	2021年度 実績	増減	売価差	数量差
電子・先端プロダクツ	900	902	+ 2	+ 3	△ 1
ライフイノベーション	450	461	+ 11	△ 4	+ 15
エラストマー・インフラソリューション	1,100	1,069	△ 31	+ 2	△ 33
ポリマーソリューション	1,250	1,266	+ 16	+ 11	+ 5
その他 / 消去差	150	151	+ 1	-	+ 1
合計	3,850	3,848	△ 2	+ 12	△ 14

営業利益 単位：億円	2021年度 2月予想	2021年度 実績	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	185	187	+ 2	+ 3	+ 0	△ 1
ライフイノベーション	145	155	+ 10	△ 4	+ 6	+ 9
エラストマー・インフラソリューション	△35	△35	+ 0	+ 2	△ 1	△ 1
ポリマーソリューション	85	79	△ 6	+ 11	△ 2	△ 15
その他 / 消去差	20	15	△ 5	-	△ 5	-
合計	400	401	+ 1	+ 12	△ 1	△ 9

概ね2月予想並み

2022年度 業績予想
(2023年3月期)

現時点で想定可能な原燃料価格、為替、その他の影響を織り込み

	2021年度 実績	上期実績 (4-9月)	下期実績 (10-3月)	2022年度 予想	上期予想 (4-9月)	下期予想 (10-3月)
為 替 レ ー ト (円 / \$)	112.1	109.9	114.2	125.0	125.0	125.0
国 産 ナ フ サ (円 / Kリットル)	56,800	50,800	63,050	89,000	89,000	89,000
						(単位：億円)
	2021年度 実績	上期実績 (4-9月)	下期実績 (10-3月)	2022年度 計画	上期計画 (4-9月)	下期計画 (10-3月)
投 資	356	154	202	460	230	230
減 価 償 却 費	239	115	124	260	130	130
研 究 開 発 費	142	74	68	150	75	75
有利子負債残高	1,370	1,315	1,370	1,570	1,580	1,570

スペシャリティー事業へ戦略投資を継続

単位：億円	2021年度 実績	2022年度 予想	増減	2022年度 上期予想 (4-9月)	2022年度 下期予想 (10-3月)
売上高	3,848	4,550	+ 702	2,100	2,450
営業利益	401	430	+ 29	180	250
営業利益率	10.4%	9.5%	△ 1.0%	8.6%	10.2%
経常利益	365	410	+ 45	170	240
純利益	260	290	+ 30	130	160

**営業利益は、3期連続での最高益更新
経常利益・純利益は2期連続の最高益更新を見込む**

前年比（億円）

売上高

4,550億円

+ 702

- | | | |
|--------|--|-------|
| 1.数量差： | インフルエンザワクチンの新棟稼働による大幅な出荷増
xEV・半導体・5G通信・再生可能エネルギーなどの需要伸長
クロロプレンゴムのハリケーンアイダによる一過性のマイナス影響解消 | + 141 |
| 2.売価差： | アセチレンブラックの製品価値に見合った大幅な価格改定
新型コロナ抗原検査の保険点数引き下げ
原料市況上昇に対応した製品販売価格改定（クロロプレンゴム、ポパールなどの追加値上げ） | + 560 |

営業利益

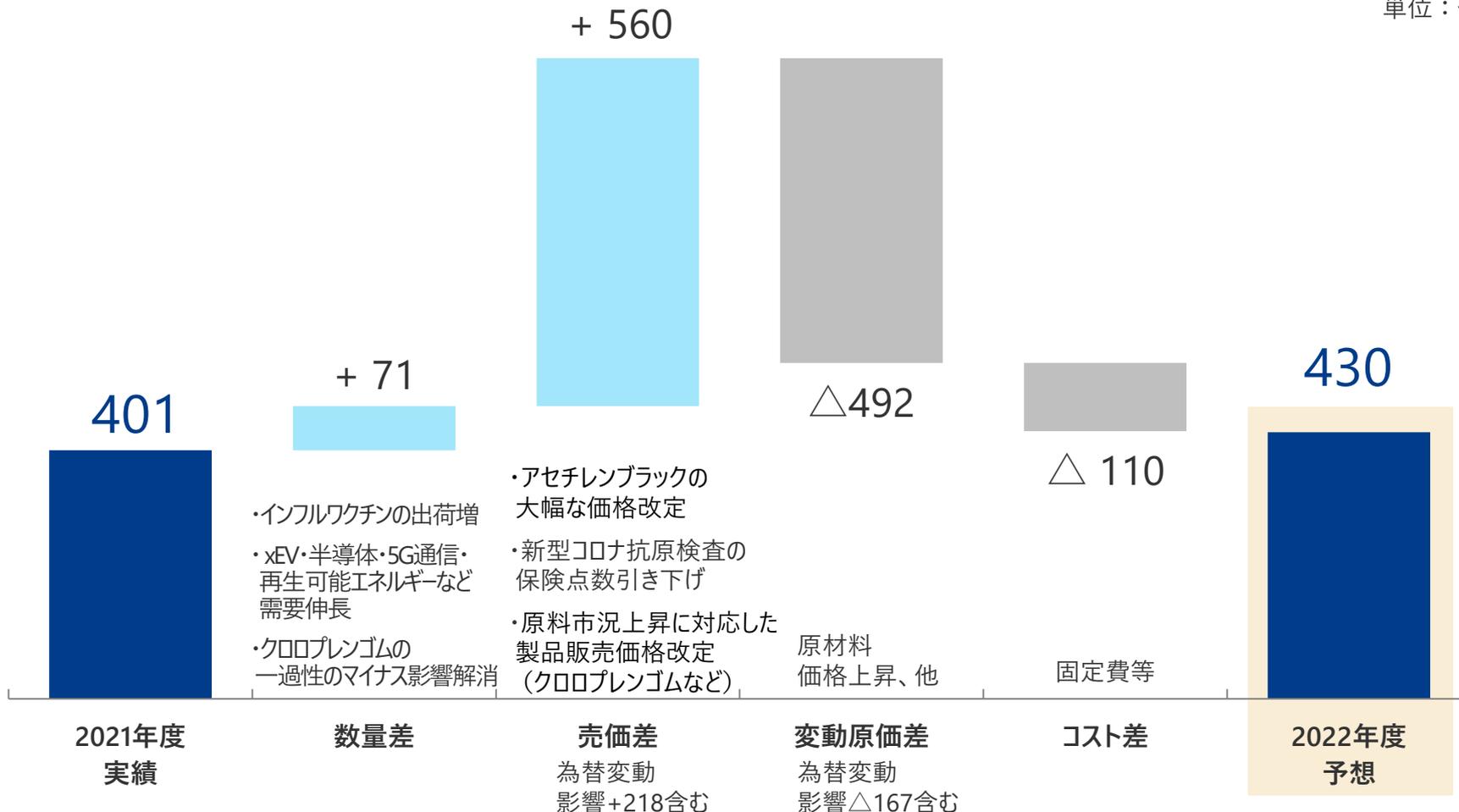
430億円

+ 29

- | | | |
|----------|--|-------|
| 1.数量差 | インフルエンザワクチンの新棟稼働による大幅な出荷増
xEV・半導体・5G通信・再生可能エネルギーなどの需要伸長
クロロプレンゴムのハリケーンアイダによる一過性のマイナス影響解消 | + 71 |
| 2.売価差 | アセチレンブラックの製品価値に見合った大幅な価格改定
新型コロナ抗原検査の保険点数引き下げ
原料市況上昇に対応した製品販売価格改定（クロロプレンゴム、ポパールなどの追加値上げ）
（為替変動影響+218含む） | + 560 |
| 3.変動原価差： | 原材料価格上昇、他（為替変動影響△167含む） | △ 492 |
| 4.コスト差 | 固定費等 | △ 110 |

**スペシャリティー事業のメガトレンドを捉えた需要拡大・伸長、
機動的な価格改定によるスプレッド改善**

単位：億円



スペシャリティー事業のメガトレンドを捉えた需要拡大・伸長、機動的な価格改定によるスプレッド改善

売上高 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 予想	増減	売価差	数量差
電子・先端プロダクツ	902	1,050	+ 148	+ 110	+ 38
ライフイノベーション	461	500	+ 39	△ 64	+ 103
エラストマー・インフラソリューション	1,069	1,350	+ 281	+ 246	+ 35
ポリマーソリューション	1,266	1,500	+ 234	+ 268	△ 34
その他 / 消去差	151	150	△ 1	-	△ 1
合 計	3,848	4,550	+ 702	+ 560	+ 141

営業利益 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	187	235	+ 48	+ 110	+ 27	△ 88
ライフイノベーション	155	100	△ 55	△ 64	+ 31	△ 22
エラストマー・インフラソリューション	△ 35	10	+ 45	+ 246	+ 21	△ 222
ポリマーソリューション	79	75	△ 4	+ 268	△ 2	△ 270
その他 / 消去差	15	10	△ 5	-	△ 6	+ 1
合 計	401	430	+ 29	+ 560	+ 71	△ 602

ライフイノベーションで減益となる見込みも、
電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションの増益が上回る

2021年度				2022年度			
単位：億円	2021年度	2022年度	増減	販売動向・コスト			
売上高	902	1,050	+148	球状アルミナ	・ 22年4月よりシンガポールでの新設備本格稼働に伴い、販売数量が前年を上回る見通し		
営業利益	187	235	+48	アセチレンブラック	・ xEV、洋上風力発電向け高圧ケーブル用途が堅調 ・ 付加価値に見合った価格への大幅改定		
(利益差異内訳)				球状シリカ 高機能フィルム	・ 半導体需要拡大により、好調な出荷が続く見通し		
売価差	数量差	コスト差等	計	セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)	・ xEV関連の需要が伸長の見通し		
+110	+27	△88	+48				

市場動向 (半導体関連)

【球状シリカ】

市場シェア約3割

- ・シンガポールでの増産を決定
(供給能力) 3割増
(竣工時期) 2024年度予定
- ・大牟田工場では低誘電正接材などの次世代高機能球状フィラーの増産工事開始

【高機能フィルム】

- ・LCPフィルムの開発により高速化・大容量化に対応
5G通信に不可欠な伝送損失低減に有効な「低誘電特性」をもつLCPフィルムの事業化を推進

xEV、5G通信、半導体関連製品のメガトレンドを捉え増益

市場動向 (xEV関連)

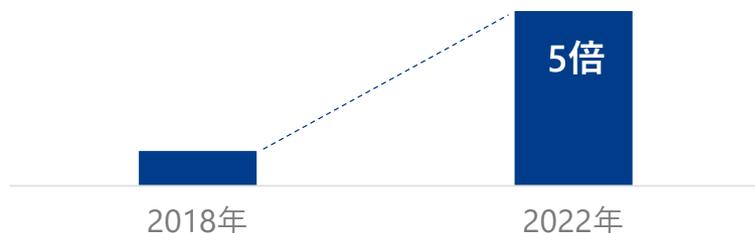
xEV関連製品の需要拡大

【主なxEV関連製品】

- ・球状アルミナ : LiB冷却機構の放熱材料用途
- ・アセチレンブラック : LiB正極材の導電助剤用途
- ・窒化珪素 : インバーター向け放熱基板用途

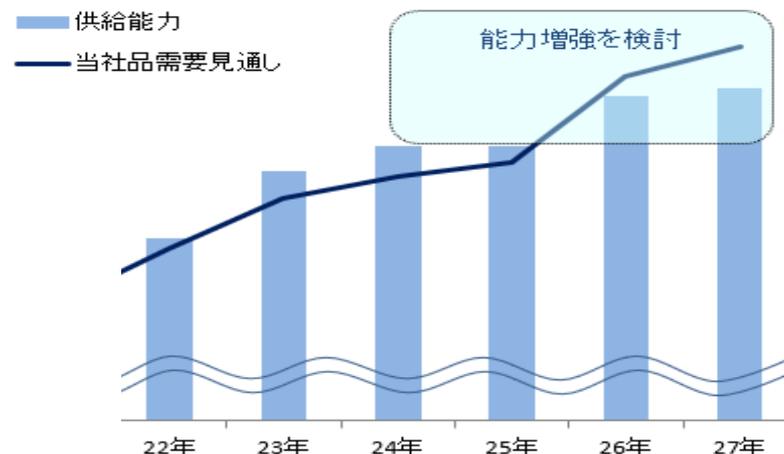
【球状アルミナ】
市場シェア約6割

- ・シンガポールでの新設備が2022年4月より本格稼働
生産能力



【アセチレンブラック】

・LiB用途の需要見通しと当社供給能力



【窒化珪素】

- ・シェアNo1堅持と更なるシェアアップへ

大牟田工場での製造能力を増強
(現行比約3割増)

2022年度下期より稼働開始予定

需要の拡大・伸長に対応した成長戦略を継続

単位：億円	2021年度	2022年度	増減
売上高	461	500	+39
営業利益	155	100	△55
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
△64	+31	△22	△55

販売動向・コスト	
新型コロナウイルス 抗原迅速診断キット	<ul style="list-style-type: none"> 保険点数引き下げ（2021年12月31日より） 昨年のような日本政府への供給は予定していないが、国内での検査キットによる検査需要拡大に伴い、前年並みの出荷数量を見込む
その他検査試薬	<ul style="list-style-type: none"> 欧米・中国向けの需要が堅調に推移
インフルエンザワクチン	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も引き続き強い需要が続く見通し 新棟稼働による増産計画：1,000万本製造

市場動向

インフルワクチン原液新棟 稼働

- (設備能力) 従来の2倍
- (投資金額) 約160億円
- (製造目標)
- 2022年度：1,000万本 (約2,000万人分)
- ⇒ 需要に対応



検査試薬（抗原検査キット除く）売上高推移



検査試薬製品の
能力増強を決定

拡大する需要に
対応した戦略投資

(投資金額)
約110億円

(竣工予定時期)
2024年度下期

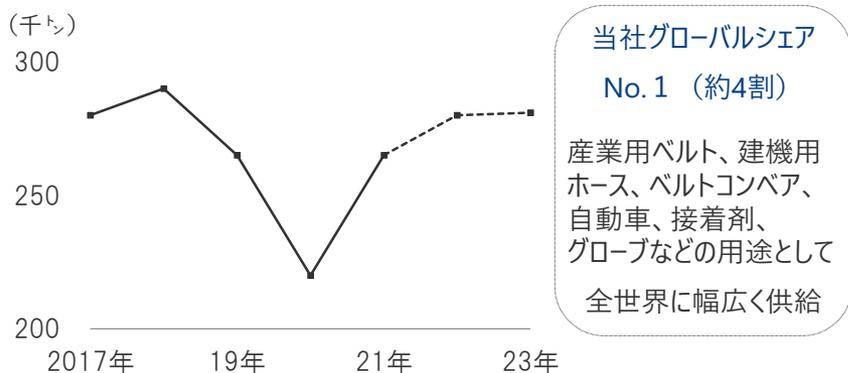
保険点数引き下げによるマイナス影響を見込み減益も、
ワクチン、検査試薬事業の強化・拡大を図る

単位：億円	2021年度	2022年度	増減
売上高	1,069	1,350	+281
営業利益	△35	10	+45
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+246	+21	△222	+45

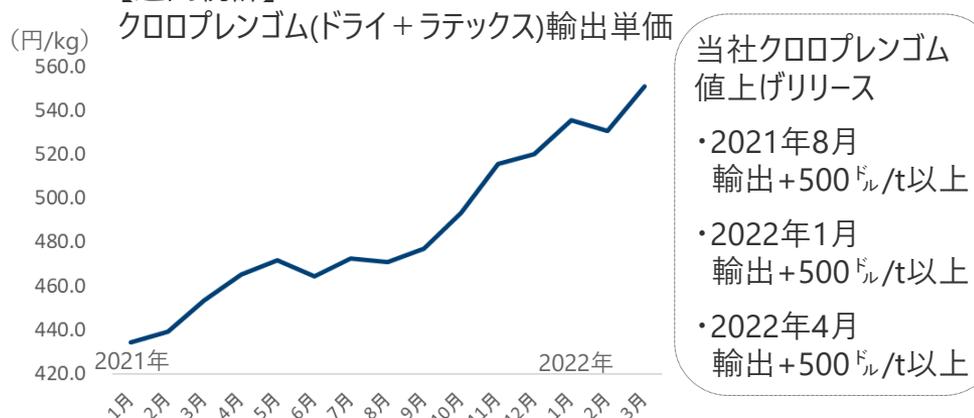
販売動向・コスト	
クロロプレングム	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度の自然災害によるマイナス影響の解消 • 原材料価格高騰に対応した価格改定を継続
特殊混和材	<ul style="list-style-type: none"> • 出荷数量が前年を上回る見通し
セメント	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年度からの値上げ交渉を推進 • ロシア・ウクライナ情勢に伴う石炭価格の急騰を織り込み

市場動向

クロロプレングム世界需要 (当社推定)



【通関統計】



原材料価格が高騰するも、機動的な値上げと、
昨年DPEでの自然災害によるマイナス影響からの解消により増益

単位：億円	2021年度	2022年度	増減
売上高	1,266	1,500	+234
営業利益	79	75	△4
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+268	△2	△270	△ 4

販売動向・コスト	
MS樹脂	・ 需要が堅調に推移する中、シンガポールでの増産効果により出荷が前年を上回る見通し
AS・ABS・透明樹脂など	・ 原材料価格高騰に対応した価格改定によりスプレッドを維持
食包シート・容器	・ 価格改定によりスプレッドを維持する見通し
Toyokalon	・ ヘアサロンなどの経済活動再開に伴い需要回復の見通し
コスト	・ スチレンモノマープラント定期修繕予定 (前回実施は2018年度)

市場動向

原料価格と当セグメントの価格改定



2021年7月よりシンガポールでのMS樹脂増産

(生産能力) 約7万ト/年⇒約14万ト/年

(投資金額) 約27億円

(販売) ・液晶テレビやPCモニターの導光板用途
・化粧品用容器等の非光学用途

原材料価格高騰もスプレッドを維持し前年並み

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 通期予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	290
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	145.0
配当額	(億円)	105	108	108	125	125
配当性向		42%	48%	47%	48%	43%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	
総還元額	(億円)	126	108	108	125	
総還元性向		50%	48%	47%	48%	
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	260
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	460
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	(9.8%)
自己資本比率		51.0%	50.0%	50.8%	51.7%	(51.3%)
DELシオ		0.45倍	0.54倍	0.52倍	0.48倍	(0.51倍)

中間70.0
期末75.0

総還元性向
50%の方針
を維持

*当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、1株当たり配当は各期と比較しやすくするために、株式併合後の数値に換算した金額を表示。

1株当たり配当は、前年の145円を維持

営業利益

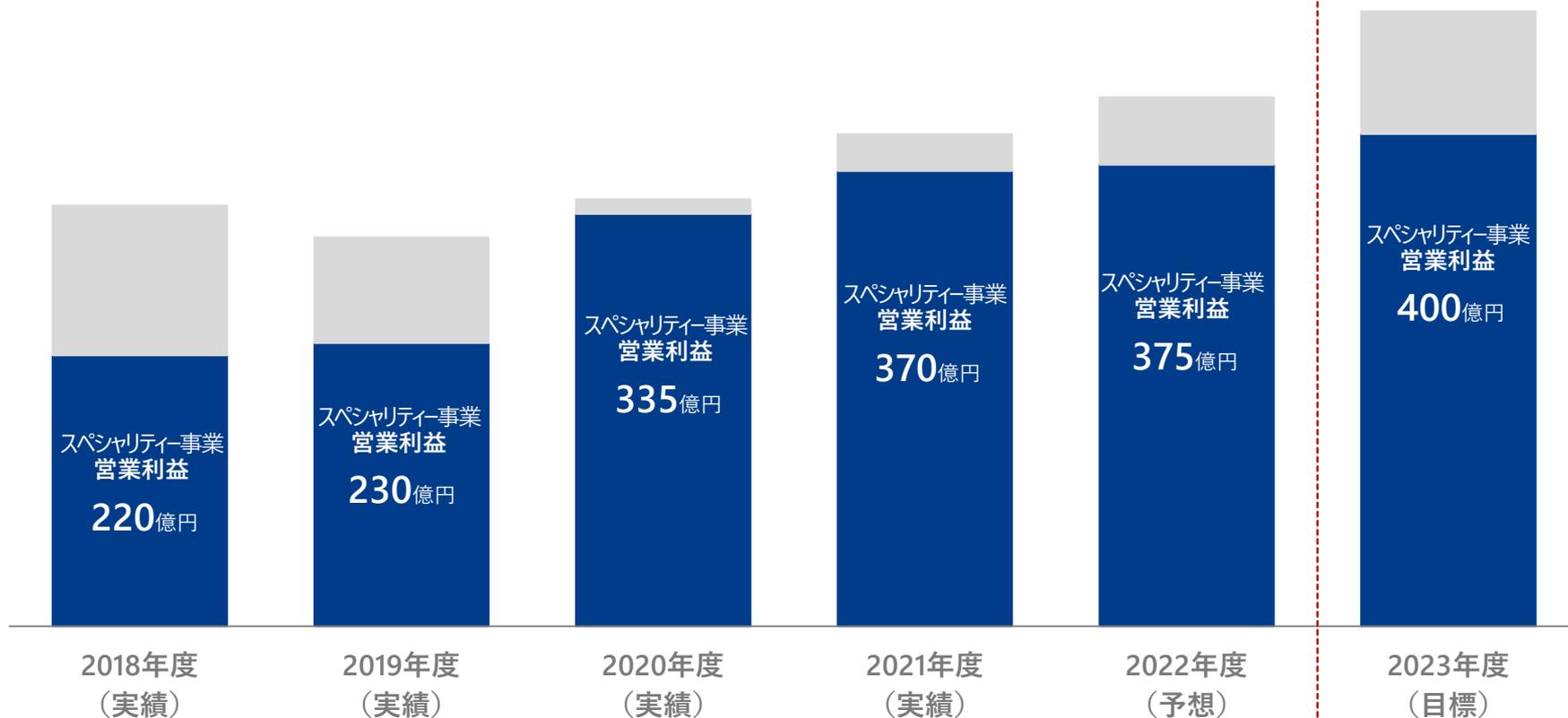
単位：億円

	2022年度 経営計画 (再計)	2022年度 予想	計画比	差異理由
電子・先端プロダクツ	215	235	+20	<ul style="list-style-type: none"> ・xEV、半導体、再エネ関連などの需要が想定並みに伸長 [計画通り進捗] <ul style="list-style-type: none"> ・球状アルミナ：2022年4月よりシンガポールの新設備が本格稼働 ・アセチレンブラック：製品価値に見合った価格へ改定
ライフソリューション	105	100	△5	[計画通り進捗] <ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザワクチン：2022年度より新棟稼働 ・新型コロナ検査キット：キットの有用性が認知され、需要が拡大 国内向け売価の下落は想定並みの見通し ・検査試薬：需要の拡大は想定並み
エラストマー・インフラソリューション	65	10	△55	<ul style="list-style-type: none"> ・クロロプレンゴム：原材料価格高騰に対応した価格改定も、改定までのタイムラグにより想定よりも悪化 ・セメント：原材料価格高騰(石炭)によるコストアップ
ポリマーソリューション	105	75	△30	<ul style="list-style-type: none"> ・MS樹脂：出荷が想定よりも下振れる見通し ・スチレンモノマーの定修費用などのコストが想定より増加
その他 / 消去差	10 [※]	10	±0	
合計	500	430	△70	

※その他が消去差に計上していた「グループ全体の労働条件改善による労務費アップ20億円」を各セグメントに按分計上しています。

電子・先端、ライフは計画に対し堅調に進捗も、エラストマー、ポリマーは原材料価格の高騰や市況の悪化などマイナス影響を受け、数値目標には未達の見通し

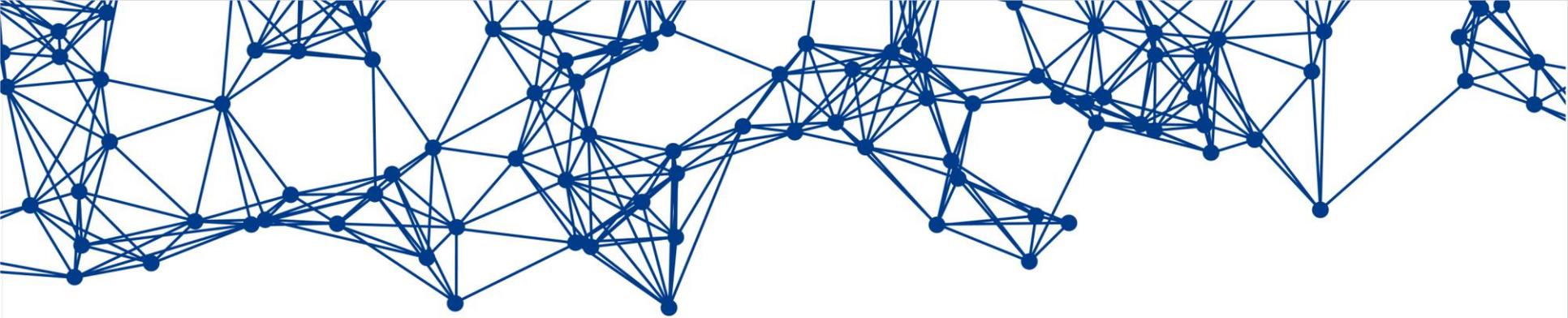
2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度予想	2023年度目標
営業利益 342 億円	316 億円	347 億円	401 億円	430 億円	500 億円
営業利益率 8.3 %	8.3 %	9.8 %	10.4 %	9.5 %	11.0 %



スペシャリティ事業の持続的な成長と基盤事業の収益改善により
2023年度営業利益500億円を目指す

売上高 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	171	196	200	211	210	228	223	240	500	550
ライフソリューション	53	109	205	63	60	193	109	99	200	300
エラストマー・インフラソリューション	198	220	248	252	246	268	261	293	650	700
ポリマーソリューション	253	251	283	313	318	315	295	339	675	825
その他 / 消去差	87	65	82	85	35	40	40	37	75	75
合計	762	841	1,017	924	867	1,044	928	1,009	2,100	2,450

営業利益 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度予想	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期	下期
電子・先端プロダクツ	28	38	36	40	44	48	46	49	110	125
ライフソリューション	0	24	114	10	3	104	12	36	40	60
エラストマー・インフラソリューション	3	△4	△19	△15	1	△0	△12	△23	10	0
ポリマーソリューション	13	16	25	30	26	18	19	16	15	60
その他 / 消去差	0	3	3	2	4	5	4	2	5	5
合計	44	77	160	67	77	175	70	79	180	250



Denka

Possibility
of
chemistry

2021年度決算説明会トピックス ヘルスケア事業

2022年5月11日

1. 沿革
2. 業績推移
3. 重点施策
 - ①診断（POCT／POCT以外の臨床検査試薬）
 - ②予防（インフルエンザワクチン）
 - ③治療（がん治療用ウイルスG47Δ製剤）
4. 次期経営計画の展望

各種ワクチン・検査試薬のスペシャリティー企業として社会に貢献

創業

東京芝浦電気株式会社
生物理化学研究所
新潟支所発足



株式会社生物理化学
研究所設立

東芝化学工業株式会社
に改称

電気化学工業株式会社
(デンカ)傘下に移行



デンカ生研株式会社に社名変更

ライフノベーション部門新設

経営統合

1945

1950 1951

1979 1982

2017

2020

- ワクチン生産開始 ('45)
- 東芝五泉工場へ移転 ('47)
- インフルエンザワクチン ('52)
- 細菌検査試薬/赤痢菌 ('52)
- 日本脳炎ワクチン ('54)
- ウイルス検査試薬/アデノウイルス ('66)
- 臨床化学試薬 ('72)
- インフルエンザHAワクチン ('72)
- 病原大腸菌免疫血清O157 ('85)
- 鏡田工場稼働 ('94)
- インフルエンザ検査試薬 ('99)
- ヒアルロン酸製剤 ('00)
- インフル A- クイック『生研』 ('00)
- 超悪玉コレステロール測定試薬 sd-LDL ('04)
- クイックナビ -Flu ('08)
- 独Icon Genetics社の全株式取得 ('15)
- コンゴ民主共和国にエボラウイルス迅速診断キットを提供 ('17)
- 台湾PlexBio社の株式33.4%を取得 ('19)
- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット ('20)
- がん治療用ウイルス G47Δ ('21)

3 すべての人に健康と福祉を

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

17 パートナーシップで未来を創り出す

予防

- ・インフルエンザHAワクチン
- ・沈降破傷風トキソイド



診断

- ・検査試薬
(迅速診断キット、
免疫血清試薬など)



治療

- ・高分子ヒアルロン酸製剤
- ・がん治療ウイルス
"G47Δ"製剤

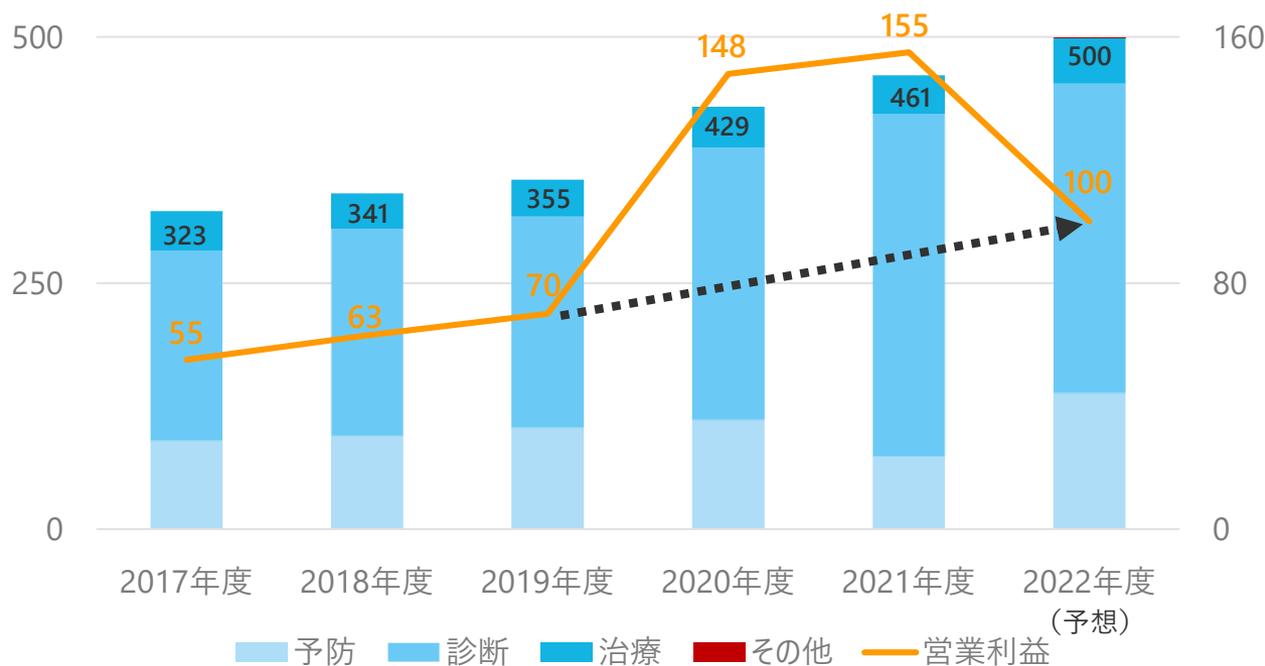


ヘルスケア事業（ライフイノベーション部門）の

売上高・営業利益推移

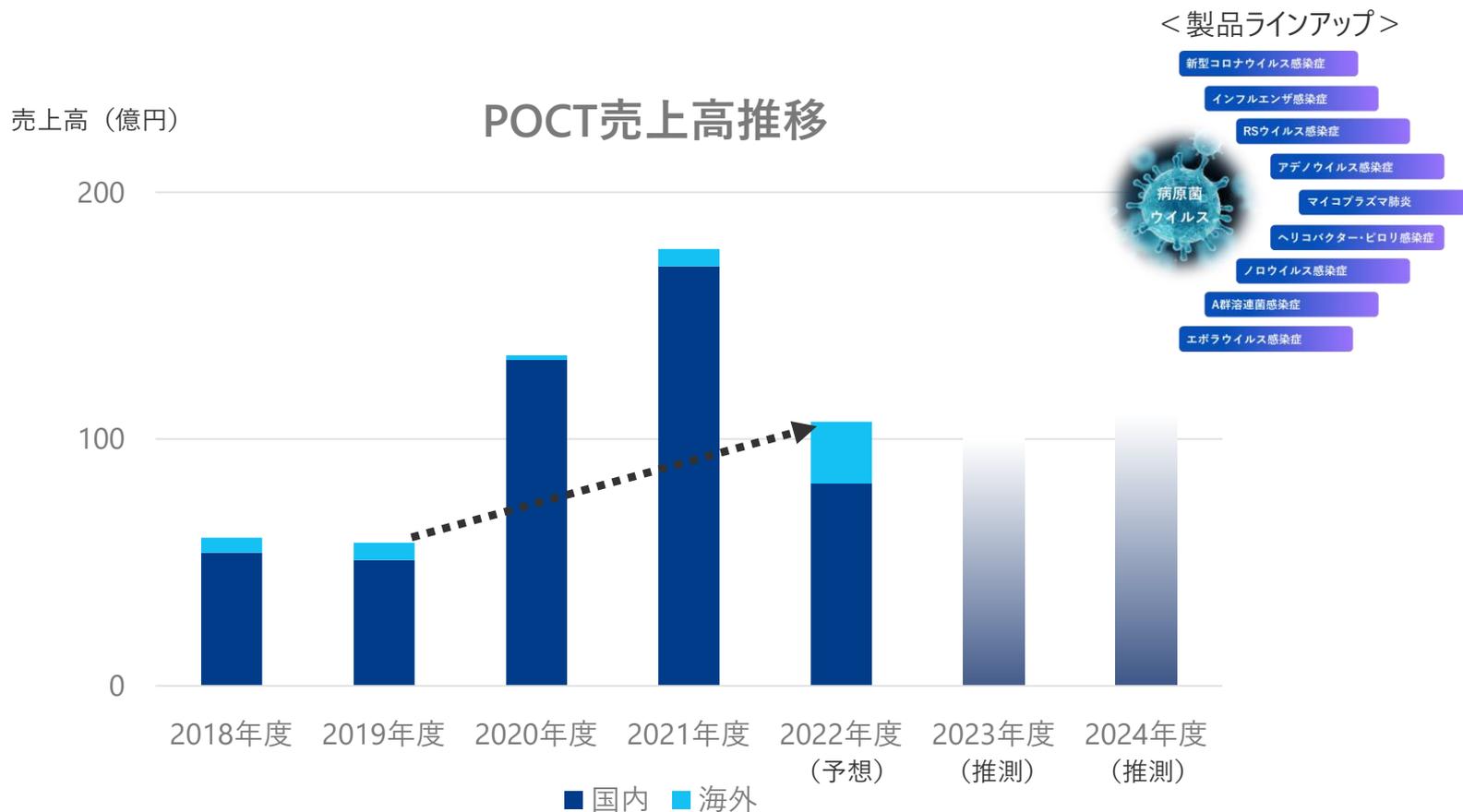
(売上高：億円)

(営業利益：億円)



20年度、21年度は新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの売上が急増

POCT売上は21年度比では大幅減もコロナ前の水準からほぼ倍増



※POCT：Point of Care Testing（臨床現場即時検査）の略。被検者の傍らで医療従事者が行う検査であり、検査時間の短縮および被検者が検査を身近に感ずるという利点を活かし、迅速かつ適切な診療・看護・疾患の予防、健康増進などに寄与し、ひいては医療の質、被験者のQOL（quality of life）および満足度の向上に資する検査。

トップメーカーとして新型コロナウイルスによるPOCT事業環境激変に積極対応



POCT事業環境想定

新型コロナウイルス感染症の定着

変異しやすい特徴から消失しない

インフルエンザの流行が復活

投薬におけるコロナとインフルエンザの峻別の必要性

国内医療機関一定の検査需要の定着

社会的ニーズの高まりによりOTC化が解禁される可能性も

セルフテストの普及で海外市場が拡大

ローコスト市場とハイエンド市場に2極化

市場

- ・海外:セルフテスト領域での展開加速
米国Xtrava社向け供給等
- ・国内:販社との連携強化による
適時安定供給とシェア確保(30%)

生産

- ・製造設備の増強
- ・保管、輸送を含むトータルでの生産力UP
- ・デジタル化、自動化による生産性向上
⇒鏡田工場への積極投資

開発

- ・高感度化
- ・判定機器 (リーダー・アプリ) 対応

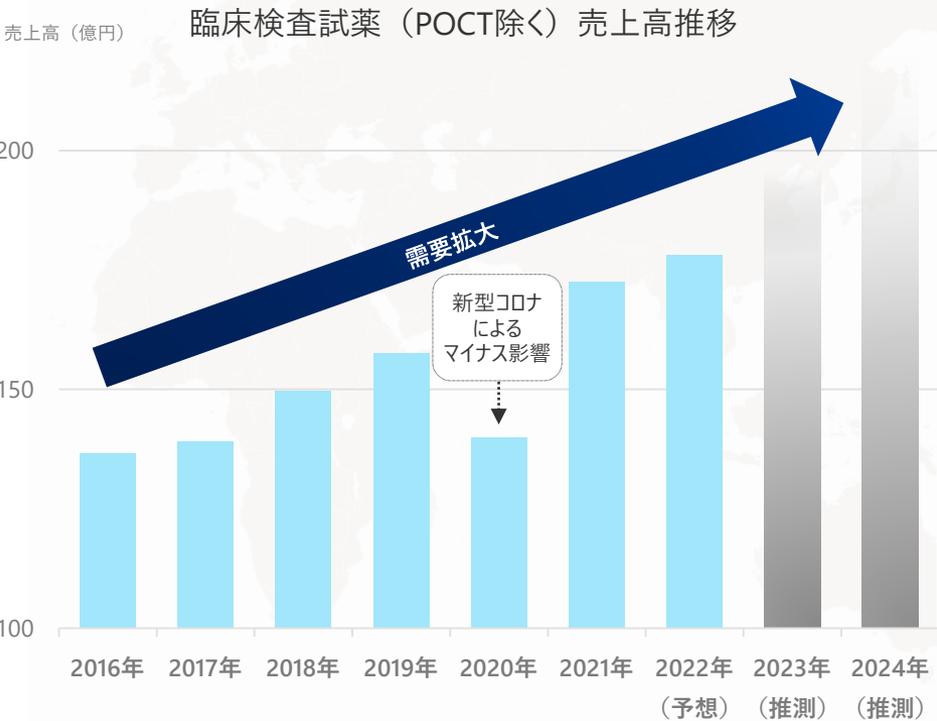
※OTC：薬局・薬店・ドラッグストアなどで処方せん無しに購入できる医薬品。「Over The Counter：オーバー・ザ・カウンター」の略で、カウンター越しにお薬を販売するかたち由来。

※セルフテスト：医療機関ではなく、企業、学校、軍隊等の大規模組織が検査を実施すること

POCT以外の臨床検査試薬売上は 欧米大手プラットフォームおよび中国向けOEM・バルク供給で 世界需要の拡大に対応

CRP世界シェア
30%

2000種類のラインアップを展開



区分	主な検査項目	用途
1 免疫血清検査	CRP、FER、IgGなど	抗原抗体反応を利用して血中の様々な物質を検出（幅広い用途）
2 臨床化学検査	コレステロール（HDL・LDL・sd-LDL）など	酵素や化学反応を利用してコレステロールなどの血中物質を検出
3 細菌検査	赤痢菌、病原性大腸菌、サルモネラ菌、ブドウ球菌など	保健所などでの疫学調査など
4 ウイルス検査	麻疹・風疹(ルバラ) など	妊婦検診やワクチン接種前の抗体価検査

1 2 ⇒ 主に自動分析装置用

- <用語補足>
- ・CRP（C反応性蛋白）
 - ・FER（フェリチン：鉄結合性タンパク質）
 - ・IgG（免疫グロブリン）



※プラットフォーム：自社製の自動分析装置と専用の試薬を販売する企業

全世界で拡大する検査需要に対応すべく能力増強を決定

POCT	設備能力を約 2.5倍 増強
臨床検査試薬 (POCT以外)	生産能力を約 2倍 増強

< 五泉事業所鏡田工場 製造新棟の外観イメージ >



エリア拡張とデジタルライゼーションによる
業務・生産・物流プロセス改革と自動化

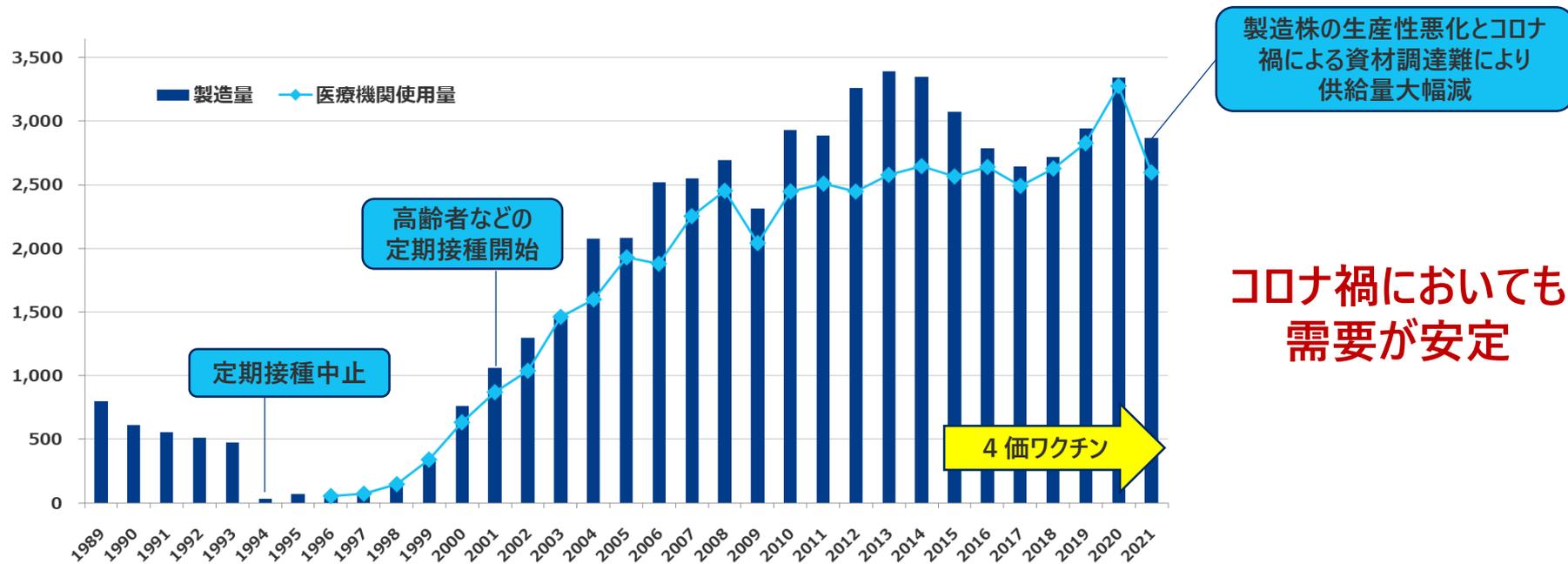


コスト競争力強化

竣工時期：2024年下期／投資金額：約110億円

3. 重点施策②予防（インフルエンザワクチン）

(万本) 【インフルエンザHAワクチンの国内供給量（4社合計）】 ※厚生労働省公表資料より作成



国内インフルエンザワクチンの製造は当社含め4社 = 社会システムを支える役割



インフルエンザから社会を守るために
ワクチンをより多く、より早く

設備能力の大幅増強により早く確実な供給が実現可能に 22年度製造目標1000万本（約2000万人分）



メリット
1

生産性の変動に柔軟に対応し安定供給に寄与
⇒ **社会的責任の遂行**

メリット
2

接種時期早期の供給量を増加
⇒ **接種機会の逸失解消**

メリット
3

最新鋭の自動化設備導入
⇒ **生産性向上**

- ・2022年3月稼働開始
- ・投資金額：約160億円

【インフルエンザワクチンができるまで】

製造用株選定(1月～3月)

世界保健機関(WHO)専門家会議で
ワクチンに用いる推奨株を毎年決定

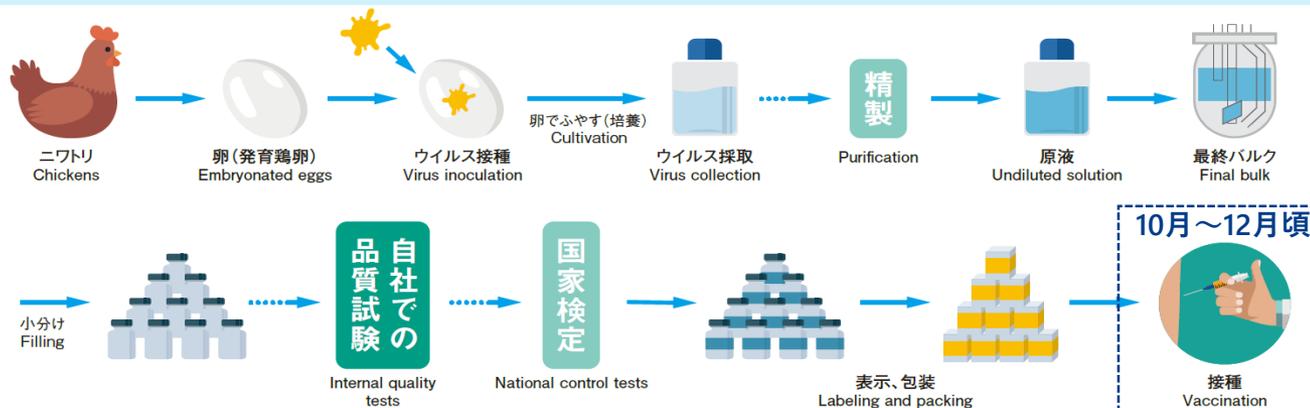


厚生労働省と国立感染症研究所が
流行状況、製造候補株の生産性
などを踏まえ、製造用株を選定



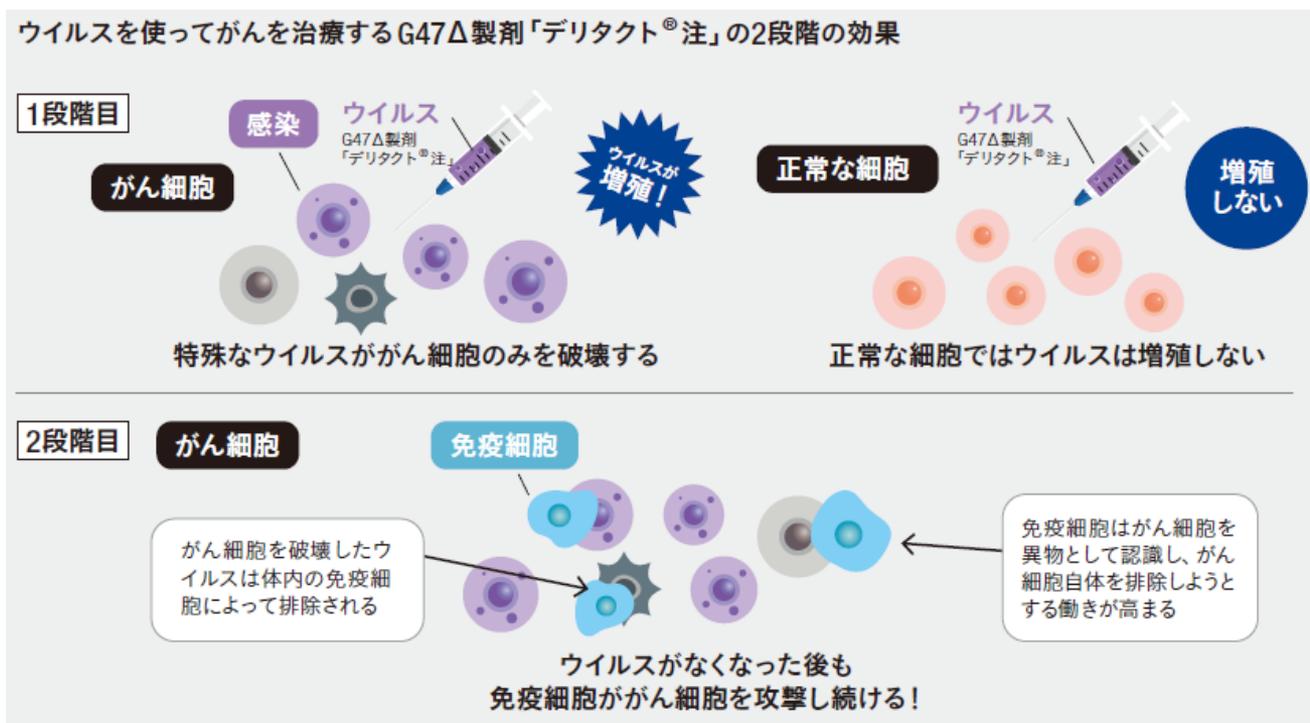
国内製造メーカー4社による候補株の
生産性評価

原液製造(3月～9月)



21年6月	悪性神経膠腫の治療を目的とした再生医療等製品として国内で条件及び期限付き承認に該当する製造販売承認を第一三共株式会社が取得
21年10月	当社より第一三共に出荷開始
21年11月	第一三共より悪性神経膠腫治療薬として製品名「デリタクト注」で販売開始 （薬価：約143万円／1mL1瓶） →第一三共を中心に適応範囲の拡大に向けた検討が進行中

悪性神経膠腫を対象として世界で初めて承認されたがん治療用ウイルス製剤



ワクチン・検査試薬で培った基盤技術を総結集し商用生産技術を開発

ウイルスの大量培養・精製技術

バイオハザード対応

ウイルス製品の評価・
分析技術

GCTP管理

（再生医療等製品の製造にかかわる法規制）

製剤化技術

遺伝子組み換え生物管理

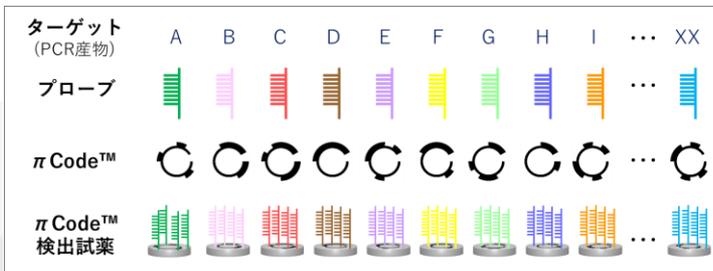
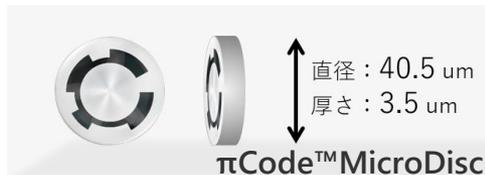
（カルタヘナ法対応）



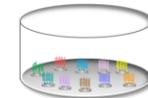
安定供給体制の構築とウイルス製剤等の医薬品製造開発受託事業
（CDMO - Contract Development and Manufacturing Organization）
への展開を目指す

IntelliPlex™システムの特長 (台湾PlexBio社)

- 同時多項目測定
- 高感度
- 抗原抗体検査 (イムノアッセイ) と遺伝子検査の双方に対応可



検出用試薬として
1つのウェルへ添加



世界の敗血症発症者数 **2,000万人～3,000万人/年**

敗血症の病原性微生物同定・薬剤耐性菌遺伝子
検査用システム (試薬・機器) 開発に向けて協業を強化
～PlexBio社の株式33.4%を取得 (2019年)～

➤ 試薬

- 世界的課題である薬剤耐性菌対策に貢献
 - 敗血症診断薬を独自開発

22年度中に
国内薬事申請

➤ 診断機器

- 臨床現場での利便性を向上
 - 全自動装置を共同開発

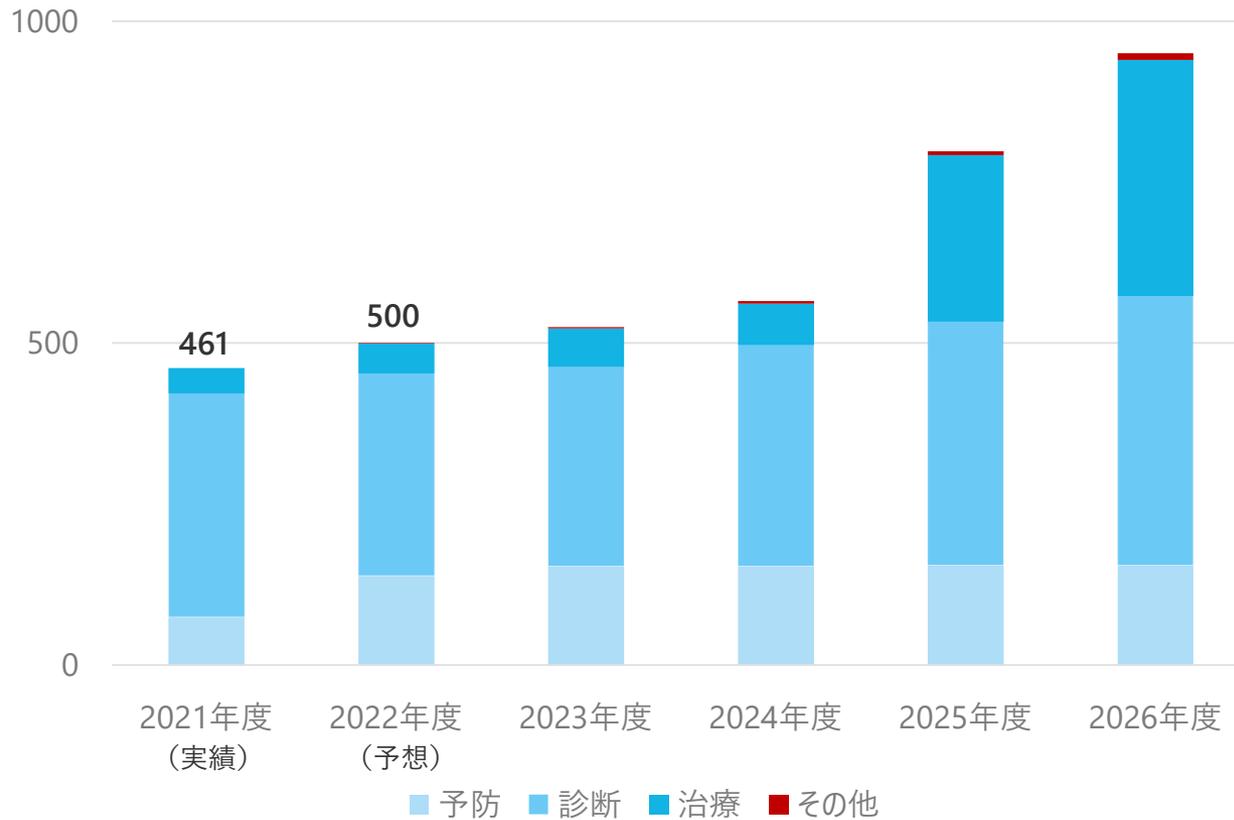
25年度上市



全自動装置 (イメージ)

「治療」分野が大きく伸長

(売上高：億円)



業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

「いのちを尊び、人々の健康を守る」

Possibility of chemistry

Denka

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>